



洞 北

北九州市立洞北中学校
学校だより NO. 7
(学力特集号)
令和3年 12月17日
文責: 善家 三知代

■令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

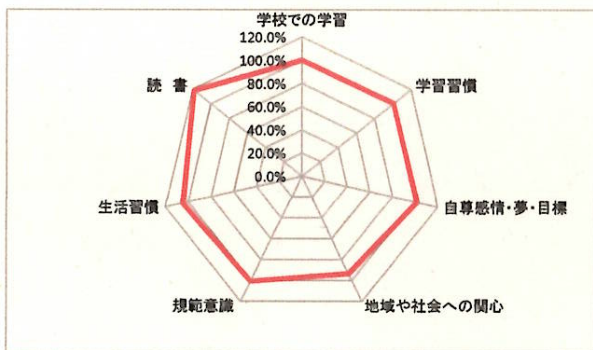
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	- 全体的に問題を最後までよく読み、その場面などをよく把握し、登場人物の心情をよく理解することができている。 - 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方及び文脈の中における語句の意味を理解することにやや苦手な傾向が見られた。	上回っている
数学	- 全体的に整式の加法と減法を始め、方程式、関数など計算力が身に付いている。 - データやグラフを見て、そのようすを数学的な表現を用いて説明することにやや苦手な傾向が見られた。また、証明問題などにおいてもやや苦手な傾向がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・将来の夢や目標を持っている生徒の割合が県や全国平均より高い。今後、進路を具体的に考える時期になると、さらに増えると考えられる。
 ・家庭学習時間においても将来の夢の実現に向けて、増加傾向にある。
 ・読書などを読むことについては、ほとんどの生徒が抵抗なく取り組むことができています。
 ・学校における学習規律がしっかりできている。その上で学習に対して、前向きに取り組んでいる生徒の割合が多い状況である。
 ・地域や社会への関心について、少し意識が低いことは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、行事関係が延期や中止になっていることが要因の1つであると考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○自分の考えなどを考えさせ、そのことを文にしてまとめる時間を確保することが必要である。

・具体的には、授業においてノートを書かせる時に自分の考えもノートに書かせる指導の工夫と時間の確保が必要となってくる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ICT機器を使う機会が増え、それに合わせての情報モラル教育も徹底する必要がある。

・具体的には、技術・家庭科で1学年の時より情報モラル教育を行っていく必要がある。また、道徳科や学活を利用して、情報モラル教育を行っていく必要がある。それを通して、充実したICT機器を活用した充実した学習に繋げていく。